

# 日本における ALT の現状と問題の改善 —オーストラリアの日本語教育と比較して—

コース 国際文化コース  
学籍番号 160570  
氏名 伏見 美瑛  
指導教員 加藤 千博

2020 年度より、世界での英語習得の重要性を受け、日本では小学校 3 年生より外国語活動を導入し、5 年生より英語の教科化が始まった。更に、文部科学省は新学習指導要領で新しい英語教育の目標の設定を行うなど日本の英語教育への発展の為の施策を講じた。その中でも、今まで重要視されてこなかった ALT (Assistant of Language Teachers) の授業への積極的な活用が明記されたことは大きい。又、在日外国人が圧倒的に少ない日本において、幼少期の内に ALT の様な外国人と英語でコミュニケーションを取ることは実践的な英語を習得する際に必要なことであると考えられる。

本論文の主題は、オーストラリアの ATJ (Assistants to Teachers of Japanese) の誘致プログラムである ATJP (Assistants to Teachers of Japanese Programme) と日本の JET プログラムを比較分析することである。本論文では、日本でのより多くの ALT 雇用を期待し、JET プログラムや職場環境の課題を見つけ、改善策を検討することを目的とする。方法として、現役の ALT の回答したアンケートから職場環境の問題点について考察し、ATJP からヒントを得ることで、JET プログラムの課題の改善策を検討した。

第 1 章では、新旧学習指導要領の比較を行い、新学習指導要領では、外国人とコミュニケーションを取ることを前提とした実用的な英語の習得が強調されていることが明らかになった。このことから、授業における ALT の活用が従来よりも重要視されるべきであることを指摘した。次に、ALT の誘致プログラムである JET プログラムの説明を通して、JET プログラムの給与の不平等などの課題を見出した。また、ALT に関する先行研究から職場での問題について分析を行った。そこで明らかになったことは、ALT の授業中の役割の不明瞭さから起きる日本人教員と行う Team Teaching (TT) の問題と、職場での日本人の他教員とのコミュニケーション不和の問題があるということである。

第 2 章では、バイリンガル教育に成功しているオーストラリアの ATJ 誘致プログラムである ATJP の説明を行なった。また、多文化共生国であるオーストラリアの文化的背景と比較し、日本の英語教育の目的や学習意識について新たな見解を示した。日本では日常的に外国人と対話する機会が殆どない為、英語教育においてテストや受験などの点数や合否を出すやり方が、英語本来のコミュニケーションツールとしての役割への意識を失わせていると指摘した。多人種の共生する社会が構成されているオーストラリアでは英語という母

語以外の他言語に関して、日常的に使う実用面が重視されており、英語に関しても、移民の話す様々なイントネーションや特徴のある英語は、その個々人の背景や人種を尊重する一種のアイデンティティとして認められることが明らかになった。このように、オーストラリアの多人種が共生する国際化の進んだ社会で、大切となる母語以外の言語に対する認識、英語の多様性への容認の価値観を日本の英語教育で採用するべきである。

第3章では、第1章において見出した問題に関しての具体的な解決策の提案を行った。第1章第2節で明らかにした問題は「授業のTTの問題」と「職場での孤立の問題」である。まず、TTの問題では、授業の流れを確認し、ALTと日本人教師の意思疎通を手伝う第三者であるコーディネーターの設置を検討した。次に、ALTの職場での孤立を防ぐ為、事前にALTと日本人教師両者に互いの文化や言語への理解を促す事前研修を開催することを推奨した。また、授業の円滑化とALTと日本人教師とのコミュニケーションを取るための出来る両側面の解決策としてコーチングという講座の受講も提案した。最後に、JETプログラムの問題として給与の不平等やALTの教員としての質のばらつきを第1章第3節で取り上げたが、この解決策としてオーストラリアのATJPに習い、無給と有給のプログラムをつくることを検討した。また、現在、白人のALTが8割を占めていることを踏まえ、生徒達がより多人種と交流し、異文化と多文化共生社会への理解を深められる様に、English as a Second Language 話者であるフィリピン人のALT誘致の促進を提案した。

本論文では、ALTの授業での活用の重要性が高まっていることを受け、オーストラリアのATJPや派遣プログラムから日本のJETプログラムの課題を発見し、解決案を自ら考察し、提案した。また、オーストラリアという多文化共生社会での英語や他言語に関しての価値観の違いを取り上げることで、日本の従来の英語教育の欠点でもあった正誤によって一定の正しい英語の概念を生徒に植え付けてしまう価値観の見直しを促した。本論文では、「授業のTTの問題」と「職場での孤立の問題」を既存のALTの職場環境として発見し、その改善策としてALTコーディネーターの配置や事前研修とコーチングの開催を提案し、JETプログラムの問題点として給与の不平等やALTの教員としての質のばらつきを指摘し、JETプログラムの改善案として無給と有給のプログラムを作ることとフィリピン人の様なESL話者のALT雇用がより多くのALT誘致に効果的であると結論づけた。以上の様に、実際に働いているALTの直面している問題とこれから働きに来るALTの為のJETプログラムの内容の改善を取り上げたこと、その解決策を導く為にバイリンガル教育に成功しているオーストラリアのATJPの例に、日本での英語教育での英語を学ぶことへの価値観やALT誘致に効率的なプログラム内容を考察できたことに本論文の意義がある。

**ID** 160570  
**Name** Misa FUSHIMI  
**Title** Actual Situations and Issues of ALT in Japan and the Improvement Plans about Them:  
In comparison with foreign languages education in Australia  
**Supervisor** Prof. Chihiro KATO

### Summary

The purpose of this thesis is to effectively attract more Assistant Language Teachers to Japan. Since 2020, 5 and 6 grade students must take compulsory English classes. Therefore, it is important for elementary students to communicate with non-Japanese in English to achieve practical English skills. Furthermore, I considered solutions to the JET program's issues by comparison with the Assistant to Teachers of Japanese Programme in Australia.

First, I examined the problems about the working environment of ALT to leading to expansion of more ALT's employment opportunities. Secondly, I investigated the ATJP in Australia to get a hint to improve the content of JET programme. Moreover, I researched the differences of awareness about foreign language between Australia and Japan. Finally, I suggested the solutions of 3 problems that found as a result of the first examination.

I pointed out that the recognition about English in Australia such as respect for the difference and diversity of English spoken by multiracial people should be adopted in Japan. Furthermore, I found 3 problems of the ALT's working environment, which are team teaching, ALT's loneliness and issues of JET program such as teaching certification. I suggested some solutions; first, regarding Team Teaching, I suggested the efficacy of ALT coordinators as the solution. Second, I addressed the effectiveness of prior training for all teachers for ALT's loneliness, and holding a coaching seminar for both of problems. Third, I claimed that JET programme should divide into two programmes, unpaid and paid. Finally, I proposed that many English as a Second Language such as Filipinos should be adopted as ALT.

In this paper, I concluded that 3 solutions about working environment; (1) setting ALT coordinator (2) holding advanced training (3) coaching and 2 improving plans about JET programme; (a) dividing into paid programme and unpaid one (b) employing more ESL speakers such as Filipinos would generate a lot of ALT employment. This thesis is significant in that it suggests some useful solutions about ALT problems and considered new values of English in Japan and the efficient content of JET programme to refer to ATJP.

Keywords: ALT, English education, ATJP, Australia